

令和3年度こうとう学びスタンダード定着度調査 結果報告書について

1 調査の概要

(1) 目的

- こどもに確実に身に付けさせたい内容を明らかにし、すべての学校でその定着を目指す「こうとう学びスタンダード」の定着状況を把握する。
- 各校でスタンダードを確実に推進し、さらにその内容の定着を徹底させるための授業改善を図る。

(2) 調査対象 ※特別支援学級（固定）の児童生徒はそれぞれの状況に応じて実施

- 小学校及び義務教育学校（前期）2～6年生児童 20,943人実施
- 中学校及び義務教育学校（後期）全学年生徒 8,328人実施

(3) 調査方法・内容

- 選択、短答及びアンケート形式による。
- 小学校及び義務教育学校（前期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・算数 ・英語
- 中学校及び義務教育学校（後期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・数学 ・英語

(4) 調査実施日

- 基準日：令和3年4月21日（水）

2 結果の概要

(1) 小学校及び義務教育学校（前期）

- スタンダード定着度 区平均
実施時期が異なるため、単純な経年比較はできないものの、国語、算数、英語ともに全ての学年で80%を超えている。中でも、国語2年・3年、算数2年・4年、英語5年・6年では90%を超えている。
- 英語スタンダード
学年が上がるごとに正答率も上昇している。「英語活動の時間は楽しいですか。」という質問項目について肯定的回答は79.3%であった。

(2) 中学校及び義務教育学校（後期）

- スタンダード定着度 区平均
実施時期が異なるため、単純な経年比較はできないものの、国語、英語は全ての学年で80%を超えている。数学の正答率は、77%～79%となった。
- 英語スタンダード
アンケートの「相手が英語で話していることをよく聞いていますか」項目に、「よく聞いている」「よく伝えている」などと肯定的に回答した生徒の正答率は、否定的に回答した生徒の正答率よりも10.5～37.8ポイント高い。

3 定着度調査結果を生かした今後の改善

- (1) 主体的な学びを促す授業
- (2) タブレット端末の効果的な活用
- (3) SD強化講師の活用の充実
- (4) 個別の支援